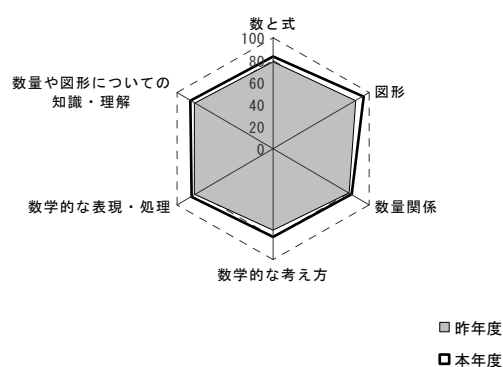


3年 数学

宇都宮市立瑞穂野中学校

1 結果

(1) 領域別・観点別平均正答率（平成19年度と18年度の状況）

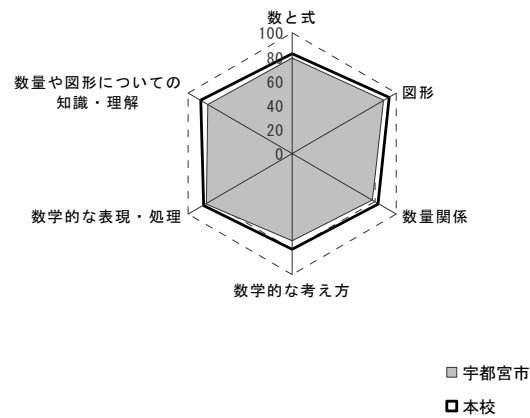


■平均正答率

		本校	
		本年度	昨年度
領域別	数と式	82.9	78.8
	図形	93.6	87.2
	数量関係	82.3	79.9
観点別			
	数学的な考え方	79.0	73.5
	数学的な表現・処理	85.4	82.1
	数量や図形についての知識・理解	86.8	82.1

受検人数	本年度	昨年度
	82人	96人

(2) 領域別・観点別平均正答率（宇都宮市と本校の状況）



■平均正答率

		宇都宮市	本校
領域別	数と式	78.6	82.9
	図形	86.8	93.6
	数量関係	76.7	82.3
観点別			
	数学的な考え方	72.0	79.0
	数学的な表現・処理	82.0	85.4
	数量や図形についての知識・理解	80.0	86.8

受検人数	宇都宮市	本校
	4000 人	82 人

昨年度に比べ領域別ですべての平均正答率が上がっている。さらにすべての領域で目安の 8 割に達しているため、今後もこれを維持・向上させることが課題となる。観点別に見ても全体的に見ても市の平均正答率を上回っているので、数学的な考え方の平均正答率 8 割達成が課題となる。

2 指導の工夫・改善

領 域	平成19年度の状況	今後の指導の重点
数と計算 (82.9%)	平均正答率は昨年より上昇し、80%を上回る結果となった。特に多項式の計算は90%上回る高い結果となった。しかし、二次方程式の利用に関する問題の平均正答率が今年度も低い結果となった。	展開や因数分解、二次方程式などの計算力はあるが、それらを利用する問題が苦手な生徒が多い。したがって、文章を読み取り、式に表現していく場面に指導の重点をおく必要がある。
図形 (93.6%)	平均正答率は昨年より上昇し、90%を上回る高い結果となった。昨年度と同様、三角形の相似に関する問題や平行線と線分の比の問題を授業で繰り返し取り扱い、多くの問題に触れてきた結果であると思われる。	三角形の証明を利用して相似の証明を考えたり、平行線と線分の比に関する問題を繰り返し授業で扱っていくことで、さわに学習内容の定着を図っていくことに重点をおく必要がある。
数量関係 (82.3%)	平均正答率は昨年よりわずかに上昇し、80%を上回る結果となったが、昨年と同様、$y = ax^2$のグラフの理解が不十分な生徒が見られる。	関数的な見方・考え方が苦手な生徒が1年時より見られるため、2年時や3年時においても、比例反比例の領域から反復しながら系統的に授業で取り扱うことに重点をおく必要がある。